



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続において

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和3年12月17日

我孫子市小中一貫教育だより
第241号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi☆小中一貫カリキュラムの共有授業実践
の様子を紹介するうな～!

今回は、湖北台西小学校の「いのち・こころ・からだの学習」と我孫子第三小学校の「キャリア教育」の学習を紹介します。

湖北台西小学校

12月14日に、第3学年で、「いのち・こころ・からだの学習」が行われました。養護教諭の佐々木先生がいのちのことを教えてくださいました。

「精子は、卵子にたどり着くまで、遠い道のりを進みます。精子を人間の大きさで考えると地球から月に行くくらいの距離です。」子ども達はいのちは、どのように誕生するのか学んでいきました。

学習の振り返りには、「生まれるというのは、赤ちゃんもお母さんもがんばることがたくさんあるということがわかりました。そう考えると、やっぱり命ってとても大切なものだと感じました。」「赤ちゃんが生まれる映像を見て、生まれ方がわかった。せいしとらんしがどうやって出会うか、わかった。」など、生まれてきたことのすばらしさを学びました。



我孫子第三小学校

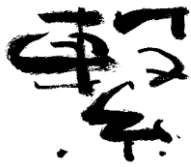
12月14日に、第6学年で、職業に関わる学習として「職業人の話を聞く会」が行われました。

建築士、ディズニーキャスト、高校教師、消防士、ラーメン店主、トリマー、保育士、イラストレーターの8人を講師として迎え、グループに分かれてそれぞれの職に関する話を聴きました。



子ども達は、消防士の任務とはどのように位置づけられているのかを法律から考えたり、ディズニーランドでは様々な立場の人々が働いていることを知ったりなど講師の話から学んでいきました。保育士など資格を必要とする職業があることやラーメンは工夫を重ねて美味しいものを作りあげていることなど、職業人の努力や思いにふれる良い機会となりました。





TSUNAGU

小から中への滑らかな接続において

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和4年1月6日

我孫子市小中一貫教育だより

第242号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi☆小中一貫カリキュラムの共有授業実践の様子を紹介するうな～!

今回は、湖北台中学校区の「教育ミニ集会」と湖北台中学校の「食育」の学習を紹介します。

湖北台中学校区

12月2日に、湖北台中学校で、小中学校合同の教育ミニ集会が行われました。教育委員会の担当からコミュニティ・スクールについて、導入の背景や、その仕組み、我孫子市ではどのようなコミュニティ・スクールを目指していくかという点について説明をしました。参加者からは「コミュニティ・スクールとPTA活動との関わりはどうか」といった質問が上がりました。



はじめの一步は、学校と、家庭、地域が、子どもを育てる目標やビジョンを共有することです。それを踏まえて、既存の関係組織や団体との連携・協働を進めていきます。それぞれの組織を大きく変えることではなく、まずは学校運営協議会を中心に、子ども達の学びや学校の運営を充実させたり、課題を解決したりするために、どのように学校と家庭、地域が役割分担をしたり、連携したりしていくかという点を話し合うことが大切になります。さらに、小中一貫教育の視点から、それらを中学校区全体で共有し、連携・協力していくためにも、今回のように小中学校で協議をする場がとても重要です。

湖北台中学校

12月17日に、単元名「食生活と自立～1日分の献立を考えよう～」として、一日の三食分の献立を考える学習が行われました。前時の学習では、朝食を振り返りましたが、「朝食は無し」という生徒もいたそうです。本時では夕食の献立を考えます。生徒たちの一人1台端末を活用し、木内先生（家庭科）、新井先生（栄養教諭）と澤木先生（ICT支援）がかねてから相談して作り上げた教材シートがTeamsに保存されています。



シートを開いて、夕食のメニューと食品をどんどん入力していきます。各食品群の摂取量は自動集計されるのですが…、食べても食べても不足する食品群があるものです。「足りない食品群を増やすために、サラダにじゃこを追加してみました。」とオリジナルサラダを考案する生徒や「ラーメンには煮卵をトッピングしてみました。」と理にかなったトッピングに気づく生徒もいました。「夕食でも小魚を食べてみるといい。小魚ってどれくらい必要だろう?」と給食献立表を眺めますが、「量が書いてない! ネットで検索するか。…一日の量は〇〇グラムまでか。」と、どんどん学び深めていきました。中学生に必要な一日の食品群をすべて摂取するには、一食では難しく、三食をバランスよく食べることが大切だと、改めて気づきました。調理実習も楽しみです。どれだけ食べれば自分の体と成長を支えていけるのか、自分自身を大切に育むための食育学習になりそうです。



T S U N A G U

- **小から中への滑らかな接続において** -

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和4年1月18日

我孫子市小中一貫教育だより

第243号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

白山中学校区の小中交流の取り組みを紹介するうな～!

白山中学校区では、昨年度に引き続き、Teams のビデオ会議システムを利用して、児童会や生徒会を中心に、計画的に小学校同士や小学校と中学校の交流を進めてきました。今回は、その様子を一部紹介します。

第1回 (我孫子第一小学校・我孫子第四小学校)



9月29日、第1回目は、中学校入学前にお互いのことを知ること、中学校進学への不安を軽減することを目的として、児童会が頑張っていることのPRと各自の自己紹介を行いました。

我孫子第一小学校の児童会は、嘉納治五郎の像をきれいにした取組を紹介。清掃道具を見せたり、活動後の参加した児童の感想の結果(グラフ)を提示したりするなど、

画面の向こうで見ている仲間たちにできる限り伝わるように工夫を凝らしていました。

続いて、相手の学校についての質問タイムが行われました。クラブや部活動、運動会について、一番人気のある給食は何か、修学旅行はどこを訪れる予定か、など様々な話題が上がり、時に笑いが起きるなど、和やかな雰囲気です。

今回の交流をとおして、一小と四小の子ども達の心の距離が、少し縮まったようです。



第2回 (我孫子第一小学校・我孫子第四小学校)



10月26日、第2回は、いよいよ、中学校進学に向けて、中学校の生活や学習について知るために、白山中学校の生徒会に聞いてみたいことを、2つの小学校の児童会で確認しました。

それぞれの学校で、事前にどんなことを質問したいか考えたものを持ち寄り、どの質問をどちらの学校が担当するのか相談しながら、話し合いました。

各学校での質問の集約はもちろん、限られた時間の中で、お互いを尊重しながら子どもたちが会議を進行していく様子からは、まさに小中一貫教育の重点であるコミュニケーション力や豊かな心が育まれていることが伝わってきました。また、2つの学校が同じミッションに取り組むという活動が、また一つお互いの距離を縮めたようです。



【質問したいこと】

- ・宿題・テスト・給食・部活・文房具・委員会・生徒会
- ・行事・進学・服装・校則・コロナ対応・大変なこと

第3回 (白山中学校・我孫子第一小学校・我孫子第四小学校)

11月22日、第3回は、白山中学校、我孫子第一小学校、我孫子第四小学校の児童会と生徒会による、リモート交流会が行われました。

今回は、小学校2校の児童会から中学校の生徒会への質問というかたちで、交流会が行われました。

小学校からは授業やテストのこと、部活動のことなど、中学校への進学に向け様々な質問が出ました。白山中学校では、10月に発足した新生徒会のメンバー(1、2年生)が、質問に対して丁寧に受け答えていく姿が見られました。

生徒会長からは、小学校のみんなが白山中学校に入学したら、「勉強や部活動を頑張りたい。給食も残菜0を目指してしっかり食べて欲しい。」という思いを語ってくれました。

中学校生活の不安を減らすことができ、進学への期待につながったようです。また、両小学校の児童会のメンバーにとっては、これまでの準備の成果も発揮でき、自信につながったことでしょう。



小中一貫の日



12月16日、我孫子第一小学校・我孫子第四小学校の6年生が、白山中学校から届いた学校紹介の動画を視聴しました。

校長先生の挨拶では、白山中学校の3つのキーワード「忍と耐」「一人の友も置きさらじ」「世界の空に天駆けん」や白山中学校の伝統についてお話がありました。

続いて、様々な教科の授業風景の紹介がありました。理科の実験の様子などを見て児童からは「面白そう」と中学校の学習を楽しみにしている様子が伺えました。

さらに、先輩へのインタビューも紹介され、中学校生活での大切なことを教えてもらいました。

動画視聴後は、分かったことや思ったことをクラスの友達と話し合ったり、お礼の手紙を書いたりしました。子どもたちは、希望を膨らませたり、学習での不安も少し感じたりしたようでした。

これまで、3校のリモート交流を支えてきた教務主任の先生は、これまで児童会と生徒会が中心になって交流してきた土台があるからこそ、今回の動画で一人一人が中学校への進学に向けて気持ちが高まったと感じたそうです。これまでとはちがった形でしたが、有意義な小中一貫の日となりました。



交流活動をとあして、子ども達がつながっていく様子がよくわかるうな。2月には、部活動見学会を実施予定だそううな～。





TSUNAGU

小から中への滑らかな接続において

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和4年1月25日

我孫子市小中一貫教育だより
第244号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしほ」

Abi☆小中一貫カリキュラムの共有実践授業を 紹介するうな~!

今回は白山中学校の Abi-キャリアと、並木小学校の Abi-ふるさとの実践を紹介します。

Abi-キャリア 職業人講話

1月13日に白山中学校の第1学年で、キャリア学習として職業人講話会が行われました。ラジオDJ、外資系金融業、調律師、保険代理店、建設業、僧侶、警察官、理美容師、東武鉄道といったさまざまな職業の方を講師にお迎えし、生徒からの事前の質問をもとに、それぞれの職業の内容やそのための進路選択の在り方、また社会人として大切なことなどをお話ししていただきました。生徒たちは、「誠実に生きていくこと」「自分のファンをつくること」「自分の苦手にとらわれず、やりたいことに向かって自分の得意な角度から挑戦すること」の大切さなど、講師の方の体験や言葉から、自身のキャリアを積み重ねていくためのヒントをたくさん得ることができたようです。
(白山中学校 HP でも紹介されています。ぜひご覧ください。)



Abi-ふるさと

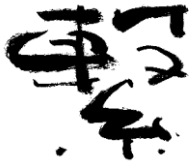
1月18日に、並木小学校の第5学年で、我孫子の先人「嘉納治五郎」についての学習を行いました。2020 オリンピック開催を皮切りに、タブレット端末を活用してオリンピックについて調べていくと、柔道の功績や東京オリンピック、そして「精力善用」「自他共栄」などにたどり着きました。

児童が1番目を輝かせていたのは、嘉納治五郎の精神が「体育」に今も受け継がれているという場面でした。体育の学習には、「体力の向上」と「人格の形成」の面があると聞くと、児童から感嘆の声がもれ、嘉納治五郎の偉大さを実感していました。

その他にも、オリンピックの精神と嘉納治五郎の考え方を結びつけたり、治五郎のおかげで有名な人々が我孫子市に集まったことなどの説明を受けたりする中で、「嘉納治五郎のすばらしさ」「我孫子市のすばらしさ」を感じることができたようです。

また、今回の学習では、児童が第3学年の時に、我孫子市について学習した際に作成した嘉納治五郎について発表資料を活用することで、より学びを深めることができました。学びの角度を変えながら繰り返し学んだり、また、ICTの活用なども含め児童の実態に応じて学び方を工夫したりすることで、Abi-ふるさとは、広く、深く学ぶことのできる学習です。今後も、工夫のある実践を紹介し、市内で共有していければと思います。





T S U N A G U

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和4年2月25日
我孫子市小中一貫教育だより
第245号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi☆小中一貫カリキュラムの共有実践授業を紹介するうな～！

今回は湖北小学校の「いのち・こころ・からだの学習」と、布佐小学校のAbi-ふるさとの実践を紹介します。

「いのち・こころ・からだの学習」

1月21日に、湖北小学校の第2学年で、「いのち・こころ・からだの学習」が行われました。テーマは「わたしのたんじょう」です。誕生のメカニズムを学ぶことも大事なのですが、今回は生んでくれた保護者の気持ちや、自分が生まれたことの尊さについて考えさせたいというのが、一番のねらいです。



学習中、児童達は胎児の心音や精子・卵子の存在など、初めて聞く言葉に興味津々でした。特に、命の始まり、受精卵の大きさを実際に確かめてみてビックリ！自分たちがこんなにも小さな命から始まっているということを実感していました。

また、担任の先生が事前に保護者の方をお願いして、メッセージを書いてもらいました。自分が誕生した時どんな気持ちだったのか、先生が教えてくれました。それを聞いて、「命はやっぱり大切だと思った」、「大変な思いをして生んでくれた」という思いをもつことができました。



Abi-ふるさと

2月22日に、布佐小学校の第5学年で、我孫子の先人「飯泉喜雄」についての学習を行い、どのような思いで、我孫子駅の開設を果たしたのかを考えていきました。

駅ができる前と後の地図を比べて、建物や道路が増えていることに気づきました。「鉄道なくして、町の発展なし」と信じて行動した飯泉喜雄の功績にふれました。



今回の学習では、飯泉喜雄の私財をなげうってでも我孫子駅を誘致した思いや人々の暮らしを便利にしたいという願いを学ぶことができました。

我孫子の先人の姿から「新幹線の駅を誘致したい」、「我孫子のためにできることを自分もやりたい」など、今我孫子に住んでいる自分はどうしたいのかを振り返りました。

